

平成29年6月28日(水) 5校時

場 所 発見の森図書館

授業者 T1

T2

T3

1 単元名 ときどき わくわく まちたんけん

2 単元のねらい

○身近な地域の人々やさまざまな場所のことを、もっと知りたいという関心を持っている。

【生活への関心・意欲・態度】

○ルールやマナーを守り安全に気をつけて探検をしようとしている。

【生活への関心・意欲・態度】

○行きたい場所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動について考えながら計画を立てて町探検をしている。

【活動や体験についての思考・表現】

○町探検で伝えたいことを選び、表現している。

【活動や体験についての思考・表現】

○地域のさまざまな場所や人々の存在や、自分たちの生活との関わりに気付いている。

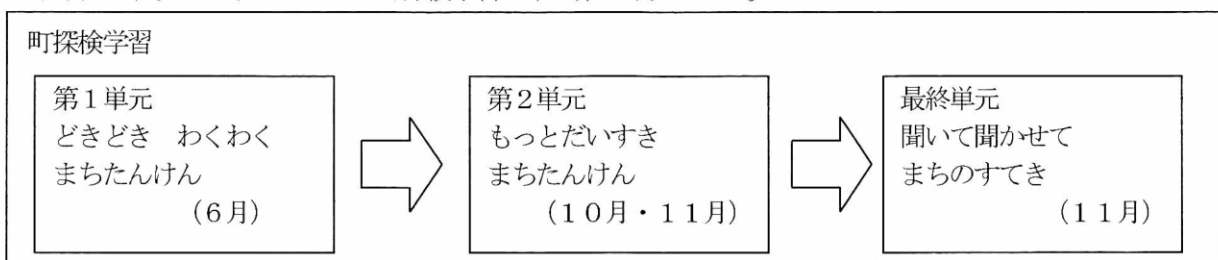
【身近な環境や自分についての気付き】

3 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」及び、(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々と関わることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」に基づいて構成している。

本単元は、次のようにつながる町探検学習の中の第1単元である。



本単元では、自分たちが生活する地域に出かけ、そこで出会った人々と接したり、様々なものやことがらを調べたりすることを通して、地域への関心を高めたり、安全で適切な行動を身につけさせたりすることを目指している。

児童が暮らす仁摩町には、次のようなものがある。

(多くの人が集まる場所) まちづくりセンター、図書館、保育所、駅、病院、サンドミュージアム	
(珍しいもの) 鍍絵、千年蓮、鳴き砂	(昔から伝わるもの) 神楽
(お店) いずもや、ココット、かめや	(自然) 川、海、山

これらをグループごとに探検し、情報をクイズにして伝え合うことで、第2単元へのさらなる意欲をたかめることができると考えている。

(2) 児童について

省略

(3) 指導について

第一次では、自分が暮らす町のどこにどんな人や物があるか紹介し合う。地域への関心を高めるために、教師が見つけたものを写真で紹介する。その後、児童が探検に行きたい場所を選ぶことができるように、紹介されたものを絵地図にまとめる。児童が目的意識を持って探検することができるようにするため、単元の最後に町探検で見つけたことをクイズにして紹介することを伝える。

第二次では、町探検の計画を確認する。安全に気をつけて探検ができるようにするため、各グループのコースを地図で確認しながら危険な場所や交通ルールについて確認するとともに、予想されるトラブルへの対応について学級全体で確認する。地域の人々と気持ちのよい関わりができるようにするため、マナーについてそれぞれのグループで話し合う。また、探検カードの情報がクイズ作りにつながることを伝え、カードに書く意欲を高めるようにする。メモの取り方をまだ学習していないので、探検カードには行った場所ごとに記入する欄を設け情報を整理しやすいように工夫をする。また、見たことや聞いたこと全てを記録するのではなく、友達に伝えたいと強く思ったことを詳しく書くように指導する。

第三次では、グループに分かれて町探検に行く。事前に地域のボランティアの方と以下の点について打ち合わせをする。

- | | | | |
|-------------|--------------------------------|-------|----------------|
| (安全確保のため) | ・探検のコース | ・帰校時刻 | ・予想されるトラブルと対処法 |
| (マナーの徹底のため) | ・探検で訪れる場所と気をつけること | | |
| (学習の補助のため) | ・記録写真とメモをとる。 | | |
| | ・コースにある記念碑、文化財、珍しいものについて児童に話す。 | | |

探検後、グループごとに、どの場所についてのクイズを出すか話し合っ決めて。その際、伝えたいことがたくさんある場所を選ぶように指導する。探検中に児童が十分に記録できないことが予想されるので、教師がとったメモと写真を学校司書が資料にまとめ、第四次のクイズ作りに生かすことができるようにする。

第四次では、伝えたいことを選んでクイズを作り、クイズ大会を行う。

1時間目の本時では、まず探検カードに書いたことから友達に伝えたいことを個人で選ぶ。自分の伝えたいことを整理・分析しやすくするため、探検カードに線を引いてから、クイズカードに書き写す。これは、学校図書館情報活用能力の「情報の整理・分析」に関連する内容である。そこで、司書教諭・学校司書と連携して授業を行う。担任は自分の考えを表現することが難しい児童の支援にあたり、司書教諭と学校司書は資料の読み取りやクイズカードの書き方に戸惑う児童の支援にあたるようにする。次に、グループ内で話し合っ、各自が出題するクイズを決める。出題するクイズがグループ内で重ならないように、必要に応じて教師が話し合いに入りそれぞれの思いを聞きながら分担を決められるように支援する。

第2・3時間目には、クイズ作りとクイズ大会を行う。クイズ作りでは、一番伝えたいことが相手に伝わるように、問題の出し方や答えの選び方を指導する。クイズ大会では、地域のことをもっと知りたいという思いを持ち、2学期の町探検への意欲を高めるために、クイズの感想や町探検の振り返りを絵地図にまとめることで、地域のことをもっと知りたいという2学期の町探検への意欲を高めた。

4 単元指導計画と評価計画（全9時間 本時7／9時間）

単元の評価規準	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
小単元の評価規準			
単元の評価規準	身近な地域の人々やさまざまな場所に関心を持ち、ルールやマナーを守って、探検しようとしている。	行きたい場所、場に応じた行動や安全な行動について考えている。 町探検をして伝えたいことを考え表現している。	地域にはさまざまな場所があり、多様な人々が働いたり生活したりしていることに気付いている。
第一次 まちのことを話そう 1時間 ＜主な学習活動＞ ・地域のことで知っていることや興味のあること、不思議に思っていることなどを紹介し合う。 ・知りたいことや見たいことを話し合う。 ・町探検で見つけたことをクイズにして紹介し合うことを確認する。	身近な地域の人々やさまざまな場所に関心を持ち、自分の知っていることや場所を紹介しようとしている。	自分がこれまでにかかわった地域の人や場所の中から、友達に知らせたいことを選んだり、知りたいことを考えたりして友達と紹介し合っている。	
第二次 まちたんけんの計画を立てよう 1時間 ・町探検のコースをグループで確認する。 ・町探検でのマナーやルールについて話し合う。 ・町探検カードの書き方を確認する。	町探検で守らなければならないマナーやルールについて考えようとしている。	友達と相談して、行きたい場所や会ってみたい人を決め、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動について考えながら、町探検の計画を立てている。	
第三次 まちたんけんに行こう 4時間 ・グループ毎に計画に沿って探検する。 ・見つけたものや人、聞いたことや気付いたことを探検カードに書く。 情報の収集 ・どの場所からクイズを出すか、グループで話し合って決める。 情報の整理・分析	探検する場所や出会った人に関心を持ち、ルールやマナーを守って町探検をしようとしている。	町探検で見つけたことを振り返り、どの場所について詳しく伝えたいか考えている。	地域には、生活している人や仕事をしている人がいることが分かり、その人たちと自分の生活とが関わっていることに気付いている。
第四次 まちのことをつたえ合おう 3時間 ・伝えたいことを個人で選び、グループ内で話し合って分担を決める。(本時) 情報の整理・分析 ・クイズを作る。 ・クイズ大会を開き、クイズの感想や探検の振り返りを絵地図にまとめる。 情報の発表	学級の友達に対して、自分が見つけたことを進んで伝えようとしている。 地域の人々や場所のことをもっと知りたいという意欲を持っている。	町探検をふり振り返り、伝えたいことを友達と相談して選んでいる。 伝えたいことが伝わるように問題の出し方や答えの選び方を考えてクイズを作っている。	地域にはさまざまな場所があり、そこには多様な人が生活していたり、さまざまな仕事に携わっている人がいたりすることに気付いている。

5 本時の活動

(1) 本時のねらい

自分がクイズにしたいことを、グループの友達に伝えることができる。 【活動や体験についての思考・表現】

(2) 本時の展開

時間	学習場面と児童の取組	学級全体への支援・留意点			評価 (評価方法)	
		T1 (担任)	T2 (司書教諭)	T3 (学校司書)		
5	1. 本時のめあてを確認する。 (T1) 説1:今日は、クイズに出すことを選びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検のことを尋ね、見つけたことを想起させる。 ・町探検クイズ大会のことを確認し、クイズ作りに対する意欲を高める。 		(授業までの準備) <ul style="list-style-type: none"> ・町探検の写真や一緒に行った大人のメモをまとめ、グループ毎の資料を作る。 ・昨年度までに作成した資料を準備する。 		
	2. クイズにしたいことがらを各自で選ぶ。 (T2) 問1:探検でどんなことを友達に伝えたいと思いましたか。 指1:友達に教えてあげたいことに線をひきましょう。 指2:線をひいたことから、3つ選んでクイズカードに書き写しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・主に自分の考えを表現することが苦手な児童の様子を観察し、児童に問いかけることで考えを引き出すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズカードの書き方について説明する。 ・伝えたいことがグループ内で重なった場合に備えて、複数の候補を挙げさせる。 ・主に資料の読み取りやカードの書き方で戸惑う児童に対して、一緒に資料を読んだり、どこに何を書くか確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、昨年度までに作成した資料を児童に示す。 		
25	3. グループで話し合って分担を決める。 (T1) 指2:どんなことをクイズにしたいかグループの友達に発表します。 指3:誰がどのクイズを出すか決めましょう。 指3:自分がクイズにすることを赤で囲みましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが上手く進まないグループについて、話し合いの進行を助ける。 ・クイズにしたいことが重複した場合、児童が自分の伝えたいことから問題を作れるように、次のような声かけをして話し合わせる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) どちらかが譲って他のことをクイズにすることで、その場所のことをよりたくさん伝えることができる。 (2) その事柄のどんな点をクイズにしたいか具体的に話し合い、それぞれの思いの違いをはっきりさせることで、より詳しく伝えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分がクイズにしたいことをグループの友達に伝えている。 【行動の観察】
40	4. 次時の活動を確認する。 説5:次の時間は、いよいよクイズを作ります。					

(3) 本時の評価

評価基準	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
予想される児童の具体的な姿と支援	聞き手の関心が高まるようなグループ発表にするための考えを伝えている。	自分がクイズにしたいことをグループの友達に伝えることができる。 (児童が十分満足できると判断されるための手立て) さらに聞き手の関心が高まるグループ発表にするための視点を与える。	どんな気持ちで選んだか教師が問いかけ、児童の思いを引き出す。

クイズカード

名前

1	
---	--

2	
---	--

3	
---	--

